

- ◎向日市民憲章◎
- 1 住みよいまちを力を合わせつくりましょう
 - 1 きれいな緑と水と空を守りましょう
 - 1 働くよろこびと心のふれあいを大切にしましょう
 - 1 すぐれた教育と文化を育てましょう
 - 1 明るいくらしと福祉のまちをきずきましょう

迅速で適切な対応

地震に
そなえて

追真の向日市総合防災訓練



倒壊家屋から救出

集中豪雨や台風はかなり正しく予測ができるようになりました。しかし、地震は依然として予測が困難です。

9月1日は「防災の日」。また、8月30日から9月5日までは「防災週間」。

向日市ではこれらにちなみ9月7日(木)に向日市立第3向陽小学校で、マグニチュード7・0、震度6の直下型地震を想定した向日市総合防災訓練を実施。

市民と行政が一丸となって災害時での対応の方法や、防災についての知識を深めました。



講評する岡崎市長

防災頭巾で 避難の練習

頭を守れ!!



頭巾をかぶって避難

第3保育所でこのほど避難訓練が行われ、新しく配布された防災頭巾が早速訓練に使用されました。

この訓練では、園児たちは避難の合図が鳴るやただちに、防災頭巾をかぶり、頭部を守りながら各々机の下に避難。揺れがおさまった頃を見計らって安全なグラウンドに集合するというもので、全員が落ち着いて規律正しく行動しました。

この訓練は、地震の災害が発生した時、消防活動や初期消火、避難誘導及び救急救助活動、また医療活動や災害復旧活動が正確かつ円滑に行われることを目指し、地域住民のみならず防災関係機関が協力して、人命救助や災害復旧などの実践的な防災活動を行う中で、自分たちの街は自分たちで守るという意識を育むことを目的に実施しました。

これは、災害対策基本法第48条の規定を受けた向日市地域防災計画に基づいて行われたものです。訓練は、災害発生時の通報を受け、ただちに岡崎向日市長を本部長とする災害対策本部を現地に設置することから始まりました。

訓練内容は、市民の生命、財産を守るために向日町警察署員らが市内の警備や交通整理を行い、地震の発生と避難方法を広報。

ただちに、現地対策本部を第3向陽小学校に設置し、市内の被害状況を調査。同時に市民及び園児を森本地区自主防災組織及び市の職員等の誘導により避難所に退避させ、負傷者を消防署員が、救護所に搬送。

さらに救護所の患者を医療

また、小学校の児童及び教職員の避難や小学校からの出火及び車両火災の消火等を実施する等の項目で訓練が進められました。

その他、初期消火の大切さを理解してもらうため、市民



狙いを定めて ソレ!



震度7の体験



高い所 はしご車で救出

訓練内容は、市民の生命、財産を守るために向日町警察署員らが市内の警備や交通整理を行い、地震の発生と避難方法を広報。

ただちに、現地対策本部を第3向陽小学校に設置し、市内の被害状況を調査。同時に市民及び園児を森本地区自主防災組織及び市の職員等の誘導により避難所に退避させ、負傷者を消防署員が、救護所に搬送。

さらに救護所の患者を医療

つづいて、各対策本部調査員からの市内の状況報告を受けた後、上下水道業者協同組合が水道管の応急復旧を行う一方、NTT・大阪ガス・関西電力の協力を得て電話・電気・ガスの応急復旧工事を施工。

最後に、岡崎市長が「皆さんの実践さながらの迅速で適切な対応を心強く感じました。今回の訓練が万が一の非常時に必ずや生かされるものと確信します」と講評する中で追真の訓練を終えました。

特に、今回は阪神・淡路大震災や北海道南西沖地震など地震についての記憶も新しく市民の災害に対する関心も高いこともあって、市民、担当者とも真剣な面持ちで訓練を行いました、またこれを見守っていました。

参加による消火器やバケツリレーでの消火訓練、起震車による地震体験等を実施しました。

防災講演会

9月28日(木)午後2時～4時
向日市民会館

講師 神戸大学工学部建設学科教授 室崎益輝氏

テーマ 地域における自主防災活動

お問い合わせ 9月22日(金)までに向日市消防本部予防課へ

阪神・淡路大震災を教訓に大震災発生に際しての対処は!